

第1部 日本画

県美術賞（NHK賞）山 景 白岩 圭介（東京）

第2部 洋画

県美術賞（河北賞） 仏 B 但野 博貞（平）

〃 （民報賞） 念(64)G 米畑 勇（福島）

特 賞（民友賞） 失われた日を再び  
橋本 照（猪苗代）

〃 （原町市長賞） 街 渡部憲司（喜多方）

第3部 彫 塑

県美術賞（ラジオ福島賞）青年 中山千代子（福島）

特 賞（原町市議長賞）はにわうた  
白沢 菊夫（〃）

第4部 工 芸

文部大臣奨励賞（県美術賞）歴 史  
富樫洋一（会津若松）

特賞（福島テレビ賞） 鳥 中里 寿（東京）

〃 （民報賞） 華 渡辺千代子（郡山）

第5部 書

県美術賞（民友賞）五言対句 後藤 溪泉（平）

特 賞（民報賞）七言絶句 田久 奇峰（棚倉）

(7) 運営委員ならびに審査員

運営委員 青津 清喜 池田 季蔵 藤本 正  
角田 行夫 若松光一郎 福島 心保  
春日部たすく 酒井 白澄 佐藤 静司  
渡辺 到源 高橋良一郎 鈴木 将武  
林 正 丹野 清栄

審査員

日本画 大平 華泉 常盤 大空 中野 蒼穹  
洋 画 阿部 七郎 佐藤 昭一 鈴木 新夫  
古川 盛雄 門馬小二郎 山川 忠義  
吉井 忠  
彫 塑 太田 良平 佐藤 静司 佐藤 義重  
工 芸 鈴木三重子 田代 法橋 照井久良人  
針谷 三男  
書 安藤 攝石 斎藤 芳龍 中沢 帰雲

(7) 効 果

本県は美術人口の層が厚く、新人の登龍門といわれる春の県展、秋の選抜秀作展の作品はよく本県の美術水準を表現している。原町開催ははじめての催しであったが、原町市当局、在住作家の協力できわめて盛会であった。秋には本展が刺激となって原町市展が大同団結のもと新生の第1回展が開かれて、地方文化の向上に大いに役だった。

第17回県文学賞

(1) 応募数

区 分	小 説	詩	短 歌	俳 句	計
37年度	30	22	30	17	99
38年度	41	14	32	23	110
39年度	38	22	22	15	97

(2) 審 査 員

荒 正人、富沢有為男、田中 冬二、加藤楸邨、  
平井 博、川村 重和、道山草太郎、川村重和、  
天野 龍雄、新城 杏所

(3) 受 賞 者（13ページ参照）

3 18回県合唱コンクール

県合唱連盟に委託事業として実施し、福島市教育委員会、朝日新聞社の共催により実施した。

(1) 期 日 39・10・4 大学、職場、一般の部  
同 5 高等学校の部

(2) 会 場 福島県営体育館

(3) 参加団体

高等学校の部 男声6 女声18 混声21  
職場一般の部 大学1 職場4 一般7

(4) 審査員 国立音楽大学教授 岡本 敏 明  
作曲家 磯部 寂  
東京芸術大学講師 須賀 靖 元

(5) 入 賞

最優秀 福大経済学部（大学の部） 国鉄郡山工場  
（職場の部） FMC（一般の部） 安達高  
校（高校の部）

優 秀 玉川機械金属（職場の部） 平FG、福島グ  
リークラブ（以上一般の部） 会津女子高校  
郡山女子短大付属高校、福島女子高校、桜の  
聖母学院、福島高校、磐城高校、（以上高校  
の部）

入 選 一般の部 1 高校の部 10

4 第18回県演劇コンクール

県演劇協議会に委託事業として実施し、福島市、福島市教育委員会の共催により実施した。

(1) 期 日 39・11・29 一般の部  
同 30 高等学校の部

(2) 会 場 福島市公会堂

(3) 参加団体 一般の部 7 高等学校の部 7

(4) 審査員 俳優座演出家 大木 靖  
劇作家 江口 寿 男  
劇作家 湯川 計 伍

(5) 入 最

最優秀 呉羽化学（一般の部） 磐城女子高校（高  
校の部）